

天

平成二十六年 度

国 語

(第一回 A 入 試)

注 意

- 一 試験開始のチャイムが鳴るまで、表紙を開いてはいけません。
- 二 試験開始のチャイムが鳴ったら、まず問題の表紙と解答用紙の決められた所に受験番号と氏名を書き、問題のページ数を確かめてから始めなさい。
- 三 この問題は十ページあります。ページの不足や乱れがあったら、だまって手をあげなさい。
- 四 印刷のはつきりしていない所があったら、だまって手をあげなさい。
- 五 試験終了のチャイムが鳴ったら、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 六 問題・解答用紙ともに集めますので、両方とも机の上に表を上にして置きなさい。

受 験 番 号	氏 名

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある解答については、句読点も一字とします。

多くの人は、とてつもない技量を持った医者がいて欲しいと願っている。その願望を「具現化したのが、手塚治虫さんの描いた『ブラック・ジャック』（秋田書店刊）だろう。ブラック・ジャックというのは、奇跡的なパワーを持った外科医だ。

ブラック・ジャックは、医師免許を持っていない無免許の人間だが、技術はすごい。そこには、「医師免許も権威も何なくても、①のすごい人がいれば、人の命は助かる。逆に、医師免許を持っていて権威がある人でも、①が悪ければ人を救えないぞ」という問題提起があるのではないかと思う。

『ブラック・ジャック』には、世の中で地位も権力もお金も手にした成功者が、権威のある医者ではなく、お金をふんだくる無免許のブラック・ジャックに手術を頼みに行くというストーリーが多い。権威よりも中身が大切なんだということを表しているのだろう。

医学の祖とも言えるヒポクラテスは、病気を治すには三つのものが必要だと言っている。「食べ物」、「薬草」、「はさみ」だ。「食べ物」というのは、文字通り食べ物であり、広い意味では、食生活を含めた生活習慣のことだ。「薬草」というのは、もちろん薬である。

最後の「はさみ」というのが、手術に当たる。患部を物理的に切り開いて、悪いものを取り除き、治していく。いわば現場工事である。

『ブラック・ジャック』の中には、「はさみ」、つまり、手術というものに対する「神秘性」とあがきが込められていると思う。

病気というのは、必ずしも治るとは限らない。治らない運命の病気もある。病気というのは、実に②不条理なものである。しかし、「直接患部を外科手術すれば、ひよつとしたら何とかなるんじゃないか」、「患部に人間の手が加わることによ

って、何かがドラマチックに変わるのではないか」という期待がある。それを期待通りに、見事に成功させてくれるのがブラック・ジャックである。

ブラック・ジャックがほかの医者と違うのは、③患者さんの背後にあるストーリーにまで目を向けていることだろう。マンガだから当たり前と言ってしまうが、手術に成功するだけではなく、手術をきっかけに、患者さんの人生のストーリーも大きく「転換」する。

私たち医者は、治療をすることには全力を尽くすが、患者さんのストーリーそのものには無頓着であることが多い。A、患者さんにしてみれば、それぞれのストーリーがある。一回の手術が自分の人生を決めるかもしれない。大病をきっかけに、その後の人生が変わるかもしれない。B、自分の人生ストーリーの中の大切なターニングポイントとなる可能性があるわけだ。手術が自分の運命を左右するし、人生を左右する。自分のストーリーの中で、手術というものの位置づけや重みを、医者にも感じて欲しいという願望が『ブラック・ジャック』には込められているように思う。

医者にとっては年間二〇〇例の手術のうちの一回でも、患者さんにとっては生死を決める一回であり、その後の人生ストーリーを大きく左右する一回である。簡単なことではないが、我々医者は常にそれを認識していなければならないと思う。

『ブラック・ジャック』では、あえてお金という要素を持ち出すことによって、命の大切さを訴えかけているのではないだろうか。

「命は地球よりも重い」と言われるが、C 数字に換算すると命はどのくらいの金額になるのか。健康な人にはあまりピンとこないことだろうが、病気をすることによって、④その金額は計り知れない大きな額であるということに気づく。私がシンガポールにいたときに、マレーシアの森林王が私の指導医の手術を受けることになった。そのとき彼はオープンチェック（金額の書いてない小切手）を医者に渡した。これは、自分の全財産よりも命が大切である、ということを表現

した^エ行為だと思う。

『ブラック・ジャック』では、三〇〇万円出しても命が欲しい、一億円払っても命が欲しいというストーリーがたくさん出てくる。それほどまでに生きたい、つまり、人生にはそれほどの価値があるのだ、というテーマを投げかけているのではないかと思う。だからこそ、^⑤ブラック・ジャックがあえてお金をふっかけているのではないかと、最近『ブラック・ジャック』を読み返してあらためてそう感じた。

ブラック・ジャックそのものは、実在しない。しかし、ブラック・ジャックのようになりたいと思っている医者はいくらもいる。そして、ブラック・ジャックのようになりたいけれどなれない、ということに悩んでいる医者もたくさんいる。

私は、本来は医者の誰もがブラック・ジャックになれる素質を持っていると思う。ただ、その素質を開花させるには、今の^オ医療界のシステムでは、あまりにも難しい。現在の医療界のさまざまなしごきの中では、力を十分に発揮できないでいる医者も多い。しかし、世の中の人たちが^⑥大きな声を上げていけば、医療界は変わっていかざるをえない。医者に肩書きや権威を求めるのではなく、実力と人格を兼ね備えた本来に「良い医者」だけを求めていけば、きっと医療界は変わっていく。

医者というものは、自分一人では「良い医者」になれない。医者は、患者さんがいて、患者さんから学びながら、徐々に「良い医者」になっていくものだ。また、社会が「良い医者」を強く求めることによって、「良い医者」が育つ環境もできてくる。

そういう意味では、医者というのは、患者さんに育てていただくもの、社会が育てていくものと言ってもいいと思う。世の中の人などで「良い医者」を育てていって、一人でも、二人でも、本当に「良い医者」が出てくれば、それは地域住民の、そして国民の大きな共有財産になるはずだ。

「医者に救ってもらおう」と考えるのではなく、「医者を育ててやろう」というように多くの人が発想を変えていけば、

「良い医者」は生まれてくる。医者を育てる賢い患者さんになっていただければと思う。そうすれば、きっとあなたにぴったりのブラック・ジャックがいつかきつと現れるにちがいない。私はそう願っている。

(南淵明宏『ブラック・ジャックはどこにいる?——ここまで明かす医療の真実と名医の条件』による。)

作問の都合上、本文の一部を変更しています。)

問一 — 線ア〱オの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 ①に入る体の一部を表す語を漢字一字で答えなさい。

問三 — 線②「不条理」とありますが、ここでの意味として最も適当なものを次のア〱エから選び、記号で答えなさい。

ア 不当な要求をすること。

イ 道理に合わないこと。

ウ がまんできないこと。

エ あつかいにくいこと。

問四 — 線③「患者さんの背後にあるストーリー」とありますが、それについて医者はどのようなことを考える必要があると筆者は述べていますか。文中のことばを使って、二十字以内で答えなさい。

問五 A C に入ることばとして最も適当なものを次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ つまり ウ それならば エ しかも
オ しかし カ なぜならば

問六 線④「その金額」とありますが、何の金額を指していますか、答えなさい。

問七 線⑤「ブラック・ジャックがあえてお金をふっかけている」とありますが、その理由を筆者はどのように考えていますか。本文中から三十五字以内で抜き出し、「くから。」につながる形で答えなさい。

問八 線⑥「大きな声を上げて」とありますが、「大きな声を上げ」とはどのような意味ですか。本文中から五字以内で探し、書き抜いて答えなさい。

問九 本文中にある「良い医者」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「良い医者」とはどのような「医者」ですか。本文中のことばを使って、十五字以内で答えなさい。
- (2) 「良い医者」とはどのようなことによつて育つのですか。「社会が……」「患者が……」という書き出しで、本文のことばを使って、それぞれ答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある解答については、句読点も一字とします。

バッティング練習のことだった。*スタンスについていろいろと研究を重ねていたイチロー選手は、やや*オープンスタンスに構えることを思い付く。背筋を意識しながら、足を開き気味^{きみ}にして構える。バット構えは体のバランスに従わせてみた。するとバットは、体とのバランスを取るように、自然に寝た。

「これは……!？」

イチロー選手はハツとなった。そのフォームには、自分の体にしっくりとくる感触があった。注意深くバットを振ってみる。A、バットは今までよりもスムーズに、自然な流れとして振られていた。

①その真新しいフォームを、レンジャーズ戦で試してみた。すると、3安打の当たり、しかも、3本ともアキウレツな打球がバットからはじき返された。それまでとはまったく違う感覚だった。そしてこの日から、イチロー選手が新しいフォームになじむにつれて、ヒットの数は爆発的に増えていった。夏場にピークを持っていくための準備のおかげで体の調子もよく、イチロー選手のイゼツコウチヨウは続いた。

「今までのような、自分のミスによつてアウトになるというケースが減っていったんですね。逆に言えば、ヒットにできると思った球を確実にヒットにできる回数が増えたということです」

B、イチロー選手は、まだそれが理想のフォームであるとは確信していなかった。

「ちよつと、理想に近づいたのかな、という感じでしたね。②理想への方向性が見えたという点では、『やった、これだ!』とは思いました。でも、ゴールじゃないですよ」

以前からイチロー選手は、『自分の理想は10打数10安打』と語っていた。すべての打席でヒットを放つ。恐るべき向上心である。この理想から考えてみれば、まだ『ゴールじゃない』のだ。

その言葉どおり、イチロー選手は7月の結果に満足せず、その後も微調整を繰り返していった。その証拠に、7月1日のフォームとメジャー新記録を作った10月1日のフォームでは、バットの角度に微妙な違いがある。10月1日のほうが、

バットがさらに大きく寝ている。

ただ、オープンスタンスで、バットが寝ていることは共通だった。やがてイチロー選手は、自分のバッティング・フォームの③ 感覚に気づいた。

「どこかで見たことがあるなと思って思っただけです。昔、どこかで、確かに見た。ただ、どこで見たのか、誰のフォームだったのかは思い出せなかったんですけれど」

そのなぞは、後になってイチロー選手に驚きを与えることとなった。イチロー選手の家にあった一枚の写真。そこには、その「誰か」が打席に立つ姿が写っていた。見た瞬間、イチロー選手はハッと息をのんだという。

「自分だったんですよ。それも、小学校時代の、子どものころの自分」

写真に写っていたのはなんと、まだあどけない表情でピッチャーを見すえている一朗少年の姿だったのだ。イチロー選手がたどりついたのは、純粋に、ただ夢中でバットを振っていたころの自分自身のバッティング、一朗少年のバッティング・フォームだったのだ。

「あのころって、一番自分を素直に表現できていたと思うんです」

それにしても、たどりついたバッティングが少年時代の自分のそれだったなんて。④ その事実を知った時に何を感じたのかを聞いてみた。

「なんだか遠回りしちゃったなあ、って感じですね」

「遠回り？」

「うん……やっぱりね、頭でつかちになっちゃだめだったことです。小学校の時のバッティング・フォームがベストだったというのは、変な^ウザッネン^ウがなくて、まだ頭でつかちになつてないし、ただ、純粋に來たボールを打っていたわけでしょう。それが、大人になるにつれてどんどんいろいろ考えてしまうようになる。男だと特に、強いものにあこがれるでしょ。強いっていうのがうれしかったりしてさ。小学生でも、いじめられっ子がいたらそれを助ける正義の味方とかさ。でも、

つと大人になってくると、例えば野球選手であれば、力強いスイングがしたいとか、もっとボールを遠くに飛ばしたいとか、筋肉ムキムキの体になりたいとか、そういうふうに通つちやうなんです。そうすると変なトレーニングになったりして。もともと自分が持っていたものの、僕の場合でも鈴木一朗が持っていたい

いものが、変なカブトを着せられて、変な感覚でプレイしてしまう。もったいなかったなあって、遠回りしちゃったなあって思うんですよ」

イチロー選手がメジャーリーグ行きを考え始めたオリックス時代、イチロー選手は、メジャーリーガーたちにパワーで負けないようにと、筋力トレーニングをものすごい勢いでやっていた。神戸の自宅にも最新のトレーニングマシンまで^エコウニユウ^エしていたことから、その^オイキ^オ込み^オがうかがえた。

それが、1999年の後半だったのだろうか。マシンを使った筋力トレーニングをばたりとやめてしまったのだ。

その時は、さすがイチロー選手、必ずしも筋肉ムキムキがいわけではないのだ、という何ごとにもとらわれない自由な発想に感心したのだ。

だが考えてみれば、イチロー選手だって、筋肉ムキムキのほうがいいだろうという考え方にとらわれていたから筋力トレーニングを一生懸命にやっていたのだ。頭でつかちになつていた、ということである。

それでも、とさらに思う。一生懸命に前に進んで、⑤ を繰り返してきたからこそ、イチロー選手はやっと、少年時代のフォームにたどりつけたのではないだろうか。

何も考えていなくても、人間はいつか大人になり、頭でつかちになる。頭でつかちから解放されるためには、人一倍迷って考える、^C いったん思い切り頭でつかちになるしか、方法はないのではないか。イチロー選手だって間違ったトレーニングをしたからこそ、その間違いに気づくことができた。⑥ 遠回りすることしかたどりつけないこともあるのだと、イチロー選手が身をもって教えてくれているような気がした。

(義田貴士『イチロー 果てしなき夢——少年の想い遙かに』による。作問の都合上、本文の一部を変更しています。)

*スタンス：ボールを打つときの足の開き方・構え方。

*オープンスタンス：打球方向側の足を後方に引いた構え。

問一 — 線アゝオのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 — 線② AゝC に入ることばとして最も適当なものを次のアゝオからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア それでも イ つまり
ウ だから エ すると
オ あるいは

問三 — 線①「その真新しいフォーム」とありますが、これを具体的に述べている部分を本文中から二十字以内で探し、解答欄に合わせ、書き抜いて答えなさい。

問四 — 線②「理想への方向性が見えた」とありますが、「イチロー選手」はどのようなことに気づいたのですか。わかりやすく説明しなさい。

問五 — 線③ ③ に入ることばとして最も適当なものを次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

- ア ただし イ たのもし
ウ すばらし エ なつかし

問六 — 線④「その事実」とありますが、それはどのようなことですか。わかりやすく説明しなさい。

問七 — 線⑤ ⑤ に入る四字熟語として最も適当なものを次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

- ア 喜怒哀楽 イ 試行錯誤
ウ 徹頭徹尾 エ 取捨選択

問八 — 本文からは次の一文が抜けています。どの段落の最後にもどしますか。もどす部分の直前の八字を書き抜いて答えなさい。

「イチロー選手は、進化することをやめなかったのだ。」

問九 — 線⑥「遠回りすることでしたかどりつけないこと」の例を、スポーツ以外のことと考え、百字以内で書きなさい。

受験番号

氏 名

11

[illegible][illegible]